



かながわ湘南西

障福ナビだより

令和 5 年 3 月 31 日 第 124 号



社会福祉法人 常成福祉会 丹沢自律生活センター総合相談室

〒259-1302 神奈川県秦野市菩提 1711-2 ☎ 0463-71-5872 Fax 0463-75-3377 E-mail: soudan@jousei.or.jp

秦野市 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム

「協議の場」 参加報告



時折笑顔がこぼれる中での活発な意見交換

令和 5 年 3 月 24 日（金）に、はだのこども館多目的ホールで開催されました。秦野市では令和 2 年度から「協議の場」を設け、保健・医療・福祉関係者、当事者・家族による協議を行ってきました。令和 3 年度には、民生児童委員、教育関係者、今年度は、秦野市自治会連合会、訪問看護ステーション、グループホームにも参加者を広げています。

協議に先立ち、秦野市障害福祉課からは、“にも包括”に関する現状とこれまでの取り組み経過の説明がありました。令和 2 年の 630 調査によると、秦野市の精神科病床入院患者数は 374 人、1 年以上の入院患者の 68.5%が 65 歳以上、65 歳未満の入院患者の 68%が統合失調症の方であることが判っているそうです。秦野市でのピアサポーターの活動の歴史は大変古いようですが、秦野市登録ピアサポーターの方からは、“相談会”（同じ立場の仲間として、当事者、家族、地域関係者から相談を受ける）、“つどい”（ピアサポーター同士のミーティングで、イベントの企画、広報紙の発行も行う）を毎月開催し、“普及啓発・地域交流”（自身のリカバリー：回復した経過を話し、病気・障害への理解を深める活動で、中高生、民生委員児童委員、精神科病院に入院中の方などを対象）についても取り組んでいる旨の説明がありました。秦野精神保健福祉家族会のぞみ会からは、「長い入院生活で退院を諦める人もいるが、ピアサポーターによるピア活動は、そういった方々に勇気を与える」とのお話がありました。

「これからの秦野市における『にも包括』について」をテーマにした、全体での意見交換会は、3つのグループに分かれて行われました。各グループでは、①特に困ったこと（秦野市のにも包括の弱み）、②良かったこと（強み）、③こうなったらいいな（目指すところ）、④そのために必要なこと、と順を追って、立場の違う人同士が意見を書いた付箋をホワイトボードに貼ってグループ化（KJ法）していきました。それにより、それぞれの立ち位置で見えているものが違うことを発見し、多面的に状況を把握して、考察することができました。あるグループでは、自治会長さんから、①地域住民から精神障害のある人のことで相談が入るが、よくわからないので困惑する。でも、②関係者に相談したところ、講演会を開いてもらえた。また、施設見学をして学ぶ機会をいただけた。③困った時に、専門家に相談できると良いし、④そういう体制ができると安心できる。というお話がありました。すると、同じホワイトボード上には相談支援機関が地域で普及啓発を行っているという付箋が貼られており、自治会とのつながりが無いことが判りました。そして、新たなつながりにより、それぞれの活動が活かされる可能性があることが発見できました。こうしたことはどのグループでも起きたようで、新たなつながりにより、課題への対処がしやすくなるかもしれないと参加者が実感できたことは、大きな収穫となりました。次年度の活動に期待が集まります。

第2回湘南西部圏域自立支援協議会の開催とGHについて

令和5年2月22日（水）に秦野市保健福祉センター多目的ホールで開催しました。令和元年10月以来3年4か月ぶりの対面開催となり、報告事項が相次いだこともあって、過去最長の3時間を費やしました。委員・オブザーバーの皆様、長時間のご協議、ありがとうございました。



今回は、議題「グループホームへの期待と課題」が中心となりました。グループホーム（以下、「GHという」）

に関する話題については、湘南西部圏域で日中サービス支援型が立ち始めた令和3年頃から、圏域相談支援ネットワークにおいて頻回に挙がるようになりました。今年度に入ってから、圏域内市町協議会の部会等でも話題となり、平塚市、伊勢原市においては、GH（グループホーム）連絡会が協議会内で立ち上がりました。秦野市においても令和5年度から予定されています。今年度第1回の圏域協議会（7/27）では、日中サービス支援型グループホームの事業評価を行った秦野市障害者支援委員会から、“一部厳しい意見が出る場面もあったが、地域に必要な資源として、質の向上に協力したい”という報告がありました。こうした流れをうけて、第2回圏域協議会の議題が決定されました。

会議に先立って、全ての参加機関から事前提出資料として、GHに関する期待や課題などの意見・情報をお寄せいただきました。会議資料に掲載したそのとりまとめ案の概要は、以下のとおりです。

① GHに期待する役割

「障害特性への配慮と支援の質が担保された生活の場」、「重度の障害がある方・より丁寧な支援が必要な方・地域生活移行・短期入所・緊急時の受け入れ」、「一人暮らしへのつなぎ」

② 把握している課題 ≪一部の事業所においての可能性であり、適切な支援を行っている事業所も数多くあることに留意が必要であることを前提として、共有しました≫

「適切な支援を提供できる体制・利用しやすい仕組みが整っていない」、「重度の方を受け入れるGHが少ない」、「権利擁護に不安が残る」、「他機関との連携の不足」、「地域のニーズに十分応えられない」、「深刻な人材不足」

③ 解決に向けた働きかけ等

「専門性向上への協力」、「連絡会など、当事者間の意見交換・支え合いの場の設定」、「他機関との連携強化の働きかけ」

②は①の期待感の裏返しでもあると言えます。③では、保健福祉事務所、県精神保健福祉センター、かながわAから、コンサルテーションや研修会によるスキルアップへの協力の申し出をいただきました。また、平塚市障がい者自立支援協議会から別途提供いただいた、平塚市GH連絡会アンケート調査結果からは、GHの職員の方々も現状に課題感を抱いており、課題を解決したいという強い思いがあることもわかりました。これら資料を基に、委員・オブザーバーの皆様から様々な意見や情報をいただいています。今後は、その思いのマッチングに向けて、圏域協議会として圏域内のGH連絡会の活動を側面的にサポートし、継続して進捗状況を確認していく予定です。

【あとがき】4月を前に満開の桜を見上げて、新年度に期待を膨らませる方は多いかもしれません。当事業所でも新年度から新しい体制で臨みます。4月から新規事業がスタートするので、これまで以上に皆さまのお力をお借りすることになると思いますが、令和5年度もどうぞよろしくお願いいたします。